

## 周辺エリアの開発概要

現在、元船地区周辺では、各種開発が進められています。

長崎駅は従前より西側に新設され、令和4年9月に西九州新幹線が開業し、新駅ビルも令和5年11月に開業しました。また、北部では、「長崎スタジアムシティプロジェクト」、南部では、「松が枝地区2バース化事業」によるクルーズ船受入拠点整備などが進められており、インバウンドを含めた観光客の増加や地元利用者の増大により、臨海部の姿が大きく変わっていくことが予想されます。

本構想により、まちなかエリアとも連携し、港湾機能や周辺施設の更なる利便性向上、臨海部である強みを生かしたにぎわい創出のための整備の実現に向け、進み出すことが重要となってきます。

### 【長崎港周辺エリアの各種開発概要図】



長崎市街地周辺の姿が大きく様変わりする中、元船地区の課題を解決しつつ、周辺地区と調和した「みなとまちづくり」のためには

### 港湾機能および観光・交流機能を含めた「長崎の海の玄関口」のあり方検討が必要

- 【主な課題】
- ・荷捌きの効率性
  - ・フェリーの継続的な運行
  - ・交通渋滞および車輛錯綜
  - ・歩行者回遊性不足、歩行者の安全性
  - ・上屋・立体駐車場の老朽化
  - ・臨海部としての賑わい不足 等

**松が枝地区2バース化事業**

【事業主体】国土交通省、長崎県

【事業期間】令和10年度末

【整備概要】海の国際玄関口として、大型クルーズ船が2隻同時着岸できるよう、岸壁延伸を行うことで、インバウンドを核とした賑わいの創出、地域の活性化を目指す。

**県庁舎跡地整備基本構想 (令和4年7月)**

【事業主体】長崎県

【基本理念】『歴史が息づく地で、賑わいと交流による新たな価値を創造する』

【整備する機能】

- 県民市民の憩いの場や、様々なイベント等による賑わいの場として利用できる「広場」
- この地の歴史の変遷や世界遺産など本県の魅力を体感していただく「情報発信機能」
- 本県の将来の発展に資する、若者や女性、NPO等の多様な交流を促進する「交流支援機能」
- 県警本部跡地では、産学官等の連携によるオープンイノベーションを推進

**長崎市新たな文化施設基本計画 (令和5年4月)**

【事業主体】長崎市

【施設概要】新たな文化施設。鑑賞・発表機能（ホール1000席程度）、創造支援機能（創作・イベントルーム、創作活動室）、交流促進機能（交流スペース、情報コーナー、イベント・展示スペース）、その他

## 関連計画における元船地区の役割

以下に示す既定の各種関連計画において、元船地区の役割がまとめられています。

都市計画や港湾計画関係としては、観光・レクリエーション活動を支えることや、人流・交流ゾーンとして賑わいの空間を創出していくこと、長崎駅周辺や松が枝周辺エリアとの回遊性を高めていくこととなっています。

また、観光戦略や景観計画においては、夜間景観への配慮や海への眺望を妨げない施設配置、周囲の景観と調和していくこととなっています。

区分	計画名	元船地区の役割
都市計画	県都市計画区域マスタープラン (平成26年10月 長崎県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長崎都心部は、国際的な観光・文化交流の拠点として、にぎわいのある活力と魅力的な都市空間の形成が求められる。</li> <li>●元船地区から常盤・出島地区については、臨海部に港湾関連施設と親水空間を有し、その背後には芸術文化施設を備えた商業・業務地として位置。</li> </ul>
	都市計画マスタープラン (平成28年12月 長崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海の玄関口である長崎港は、湾内や対岸からの見え方への配慮や親水性のある開放的な景観づくりを進める。景観に配慮した港の機能向上とともに周辺の観光資源との回遊性の確保に努める。質の高いデザインの創出を目指す。</li> <li>●長崎港ターミナル周辺は長崎市の海の玄関口として、観光・レクリエーション活動を支える港湾として、港湾機能の維持・充実を図る。</li> </ul>
長崎駅 周辺 エリア	「長崎市中央部・臨海地域」 都市・居住環境整備基本計画 (平成25年3月 長崎市・長崎県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長崎駅と離島航路を直結する新たな機能を導入し、陸・海のゲートウェイ(玄関口)を結びつけることにより、離島への利便性を高め、観光客の誘導により離島の活性化と産業振興に繋げていく。更に、県内各地の観光地へ観光客を誘導し、県全体の産業振興に繋げていく。</li> </ul>
	「長崎市中央部・臨海地域」 長崎駅周辺エリア整備計画 (平成25年3月 長崎市・長崎県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長崎にふさわしい拠点として、新駅舎から長崎港ターミナルに至る動線(歩行者通路等、シャトルバス)を検討する。</li> </ul>
	都市再生の全体概要図 (平成26年3月31日 長崎県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4エリア(長崎駅周辺エリア(陸の玄関口拠点)、松ヶ枝周辺エリア(海の国際玄関口拠点)、中央エリア(交流と賑わいの拠点)、まちなかエリア(歴史と賑わいの拠点))との連携を強化し、多くの人々が広く回遊できるようにしていくことが必要である。</li> </ul>
観光	長崎市観光・MICE戦略 (改定 令和3年 長崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界・日本新三大夜景である夜間景観の整備と魅力向上</li> <li>●ICTを活用したわかりやすい交通案内・情報発信の強化</li> </ul>
景観計画	長崎市景観計画 (改定 令和4年4月 長崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長崎港は、海への眺望を妨げない施設配置、建物の色彩によって周囲の景観と調和したものとする。</li> </ul>
	環長崎港夜間景観向上基本計画 (平成29年5月 長崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長崎の夜間景観の目標を「世界一の夜景都市」とする。</li> <li>●元船地区も夜間景観に配慮する。</li> </ul>
港湾 関連計画	長崎港長期構想 (平成24年3月 長崎県)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●元船エリアは、人流・交流ゾーンに特化し、賑わいの空間を創出する。</li> <li>●新駅舎と離島ターミナルとの動線を段階的に確保する。</li> <li>●尾上～元船エリアと長崎駅、まちなかの3つの拠点をつなぐ機能の強化により、回遊性を確保していく。</li> </ul>
	長崎港港湾計画 (平成26年7月改訂)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●元船地区は離島と本土とを結ぶ重要な拠点。</li> <li>●尾上地区から松が枝地区にかけての地区は、交流拠点ゾーンとする。</li> </ul>

# 整備の方向性

## コンセプト

元船地区は、まちの歴史を繋いできた中で、海や様々な船の航行を日常的に感じ、島との結びつきの中で生まれた人との交流により、賑わいを見せるまちなかに存在する「海の玄関口」です。それら一つ一つが重なり、一度に体験できることが、唯一無二である元船地区らしさであり、他とは異なる楽しさを感じます。また、漁獲魚種が全国一といった、長崎の海の幸も特別な存在意義を放ちます。

課題や県民の想い、周辺のまちづくりとの連携を踏まえ、元船地区らしさを活かし、海陸交通の交流拠点としての更なる発展のため、「海と船の楽しさを感じる、島と食と人との交流空間」を創造していきます。

# 長崎元船 OASIS

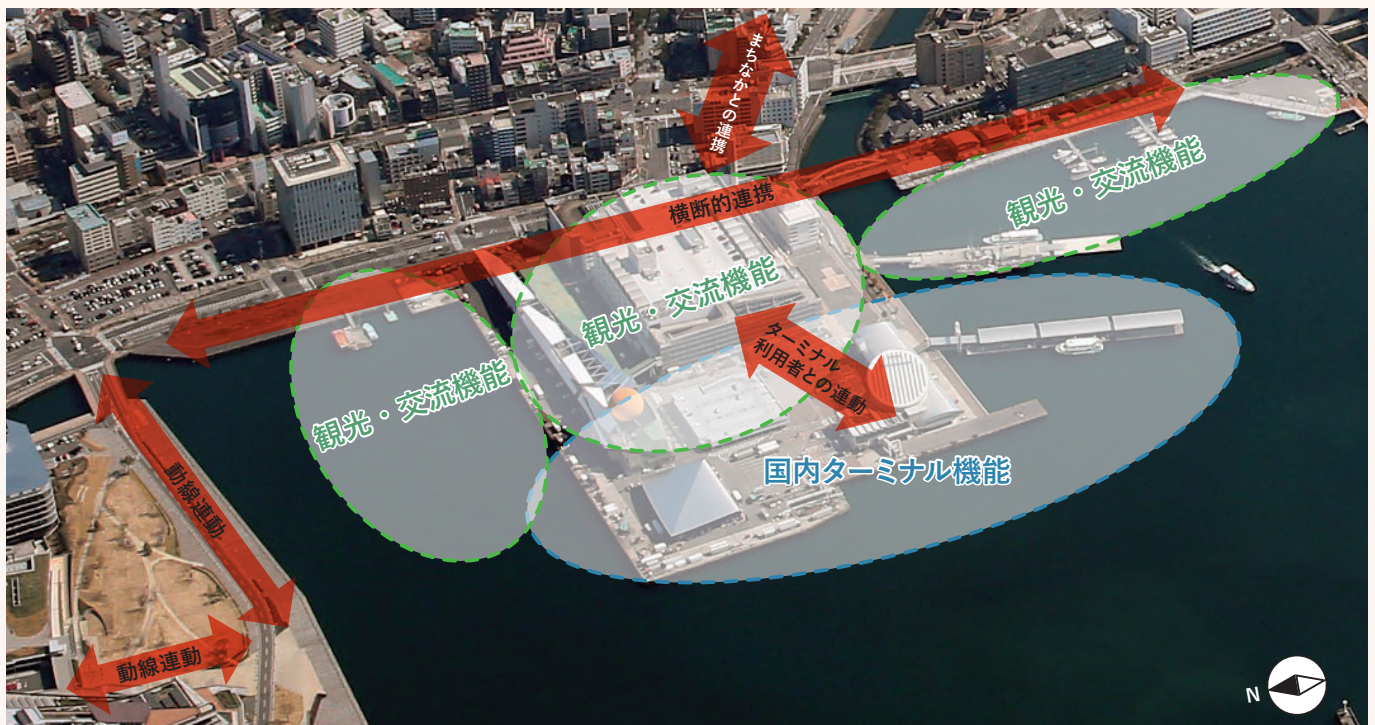
～海と船の楽しさを感じる、島と食と人との交流空間～

### 【 OASIS 】

Ocean : 海 (長崎港)  
Amuse : お楽しみ  
Ship : 船  
Seafood : 海産物  
Intersect : 交差する  
Island : 島  
Space : 空間

## エリアゾーニング

本コンセプトの実現に向けたゾーニングとして、「国内ターミナル機能」を西側に機能集約することで、荷役や旅客乗降の利便性を向上します。さらに、東側に「観光・交流機能」を配置することで、ベイエリアの横断的連携や、出島・県庁舎跡地、まちなかとの連携が可能となります。また、2つの機能は一部重複させ、ターミナル利用者と観光交流機能を連動させることで、更なるにぎわいを創出していくことを目指しています。



## ポイントおよび取組イメージ

以下に示す、5つのポイントおよび取組イメージにより、コンセプトの実現を推進していきます。

### ポイント1 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上

離島・沿岸諸島も含めた利用者に対し、雨天時の利用にも配慮したターミナル施設の機能向上等を図るとともに、駐車場機能強化等による利便性向上を図ります。また、離島の暮らしを支えるとともに、利便性を高めるため、平時だけでなく、地震などの災害時や緊急時における対応も考慮しながら、定期旅客フェリー等が継続的に運航できる機能強化および、効率的な物資供給が可能となるふ頭機能強化を図ります。

#### 【取組イメージ】

#### ① ターミナル施設の機能充実、バリアフリー化・延命化の推進

ターミナル施設のバリアフリー化を図り、駐車場の再整備および車両待機スペース・動線を見直します。  
(例) ターミナル内延命化、ボーディングブリッジ改修、駐車場改築・ターミナルと連結、歩行者動線への屋根設置 など

#### ② 岸壁の耐震性検討と対象船型の見直し

旅客埠頭において、地震時等での継続的な運航を可能とするため、耐震性を持つ岸壁の整備や可動橋の複数化、また、国内ターミナル機能の集約を目的とした船舶の再配置を検討します。  
(例) 岸壁整備・可動橋整備検討、船舶再配置 など

#### ③ 上屋の再配置と機能強化

国内ターミナル機能集約化のため、上屋利用を元船地区内での海上定期貨物に区分し、併せて荷捌き・保管作業の効率化を目的に上屋整備を実施します。  
(例) 上屋機能の集約、機能高度化した上屋改築 など

### ポイント2 臨海部を活かした観光・交流機能等によるにぎわいの創出

観光客にとって、観光クルーズが利用しやすい施設配置や、ITやデジタル技術といった次世代技術なども活用しながら、誰もが利用しやすい観光・交流機能、レクリエーション機能を強化するとともに、ベイエリアやまちなか、周辺観光地との連携を促進し、臨海部の更なるにぎわいを創出します。

#### 【取組イメージ】

#### ① 観光クルーズの再配置によるにぎわいづくり

点在する観光クルーズ発着場の集約、待合施設の配置検討など環境整備を行い、やかた船やヨット等を活用した新たなクルーズを検討します。  
(例) 観光クルーズ発着施設整備、待合所設置、新たなヨットクルーズの構築、やかた船や交通船就航 など

#### ② 港、水辺を活かした交流施設の配置による港の魅力の向上

国内ターミナル機能の集約によって生まれた土地に、臨海部である強みを活かした交流施設の新たな誘致や、次世代技術を活用したDXによる魅力向上を目指します。  
(例) 地産地消飲食施設誘致、臨海部を活かしたにぎわい施設やホテル誘致 など

#### ③ 広場活用によるにぎわいづくり

新たな広場空間の創出や、既存のおくunch広場やプラタナス広場などで、イベント開催や憩い空間の利用促進のため、広場機能の強化を図ります。  
(例) 給排水・給電設備設置、緑地化、休憩施設設置、マルシェや海産物を含めた朝市・夜市の開催 など

#### ④ 施設の立体活用による魅力の向上

新たな駐車場や上屋、待合所等、建物の屋上部分を立体的に活用することで、レクリエーション機能の向上を図ります。  
(例) 屋上スポーツ広場、屋上緑地広場、ピアガーデン、天体観測場、展望所 など

### ポイント3 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる回遊性向上

交通拠点である元船地区の円滑な車両交通を実現し、バリアフリー歩行空間を確保するとともに、各施設間の回遊性向上を図ります。また、長崎駅やベイエリア、出島・県庁舎跡地といったまちなか方面への移動の円滑性や案内性を高め、ウォーカブルな動線とすることで、ベイエリアやまちなかと元船地区との結節強化を図ります。

#### 【取組イメージ】

#### ① 道路・駐車場の再編整備による交通渋滞の緩和

駐車場容量、交差点処理や車両動線のあり方を検討し、各種車両の輻輳を緩和させることで、交通渋滞の緩和と安全な車両交通を目指します。

(例) 道路拡幅、交差点改良、駐車場拡張 など

#### ② 公共交通等によるターミナルへのアクセス性の向上

公共交通のターミナル直結の駐車場整備など、ハード、ソフト両面からターミナルへの利便性の向上を図るとともに、新モビリティ等が乗降可能な空間整備を行います。

(例) バス・タクシーベイ設置、観光バス等駐車場整備、自転車・新モビリティ乗降場整備 など

#### ③ 歩行者回遊性の向上

元船地区内の歩行空間の再整備や施設間の連結により回遊性を向上させるとともに、ベイエリアやまちなかと連動し、移動円滑性が高く、快適で魅力あるウォーカブルな空間を目指します。

(例) 歩道(遊歩道)整備、施設間連絡通路設置、施設案内板設置、ウォーカブル空間構築 など

### ポイント4 港、海が感じられる景観による魅力の向上

長崎港の広がりや、海を航行する船舶等への視点場形成、夜景に配慮した照明施設配置等や施設緑化により、心安らげる空間としての魅力向上を図ります。

#### 【取組イメージ】

#### ① 休息空間を含めた長崎港の景観性向上

地区内に休息広場を配置し、そこから長崎港の視点場を確保することで、景観を楽しむことのできる空間づくりを目指します。

(例) 広場整備、休憩施設設置、緑地化、モニュメント設置、軽食施設の誘致 など

#### ② 外から見る元船地区の景観性向上

鍋冠山や立山、稲佐山といった高台や周辺地域への来訪者に対し、周辺地域と溶け込むなど景観に配慮したデザイン性を確保し、更なる夜景空間の確保を目指します。

(例) デザイン配慮型施設整備、夜景に配慮した照明施設整備 など

### ポイント5 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

元船地区を長期にわたり魅力あるみなとまちとしていくため、公共、民間が連携して施設の整備、運営、維持管理を行うことで、利用者のニーズに柔軟に対応できるよう地区全体の質を向上させます。

#### 【取組イメージ】

#### ① 民間活力の導入による官民連携事業の検討

持続可能性に配慮した施設整備や施設の魅力の向上、効率的な管理・運営を行うため、公共と地元も一体となった民間活力の導入を目指します。

(例) PPP・PFI事業の導入、ワンストップ窓口の設置 など

#### ② 長期的かつ戦略的な施設メンテナンスの実施

元船地区の施設の一体的かつ戦略的管理により、施設の機能を損なうことなく、安定的・長期的な公共サービスを提供していきます。

(例) ライフサイクルコストを踏まえた施設修繕の実施、迅速な応急対応 など

## 観光・交流機能の方向性と具体イメージ

観光・交流機能の導入内容の検討にあたっては、他地区との差別化や周辺計画との調和に配慮する必要があり、利用者アンケート結果や本検討会議、民間事業者へのサウンディング調査での意見を踏まえる必要があります。

### 観光・交流機能の方向性への主な意見

#### 【利用者アンケートでの主な意見】

- ・歩行者の移動回遊性の確保。
- ・施設の緑化や、長崎港全景を望む視点場の整備。
- ・休息空間づくりや、イベント広場などの利用促進。
- ・多くの来訪者でにぎわう新たな交流施設の誘致。

#### 【検討会議での主な意見】

- ・長崎の魚を飲食できる空間や、市場などで購入したものを屋上で食べる、魚捌きなどの飲食までのコト体験といった、港であることを活かした企画。
- ・修学旅行生やクルーズ客も含め、団体が食事できる機能。
- ・休息、物販、飲食機能を兼ね備えた軍艦島クルーズの待合所機能。
- ・イベント開催など柔軟な対応ができる広場機能。
- ・長崎の海、船を体験できるVRも含めた体験。
- ・楽しめるかつスムーズな回遊性のある動線。

#### 【民間事業者サウンディング調査での主な意見】

- ・他地区と差別化できる海鮮や地場商品をメインとした飲食・物販機能としての活用。
- ・航路による人流を活かした水族館や温浴施設、ロープウェイ発着所、アーバンスポーツ施設、子どもの遊び空間、ホテル等。
- ・屋上のロケーションを活かした展望庭園や、夜景演出、ビアガーデン等の利用。
- ・ターミナル利用者の憩い空間として、カフェや、キッチンカー等の配置。

各意見内容はコンセプトやポイント2、4とも方向性が合致していることを踏まえ、観光・交流機能は以下のとおりの方向性とします。

### 方向性

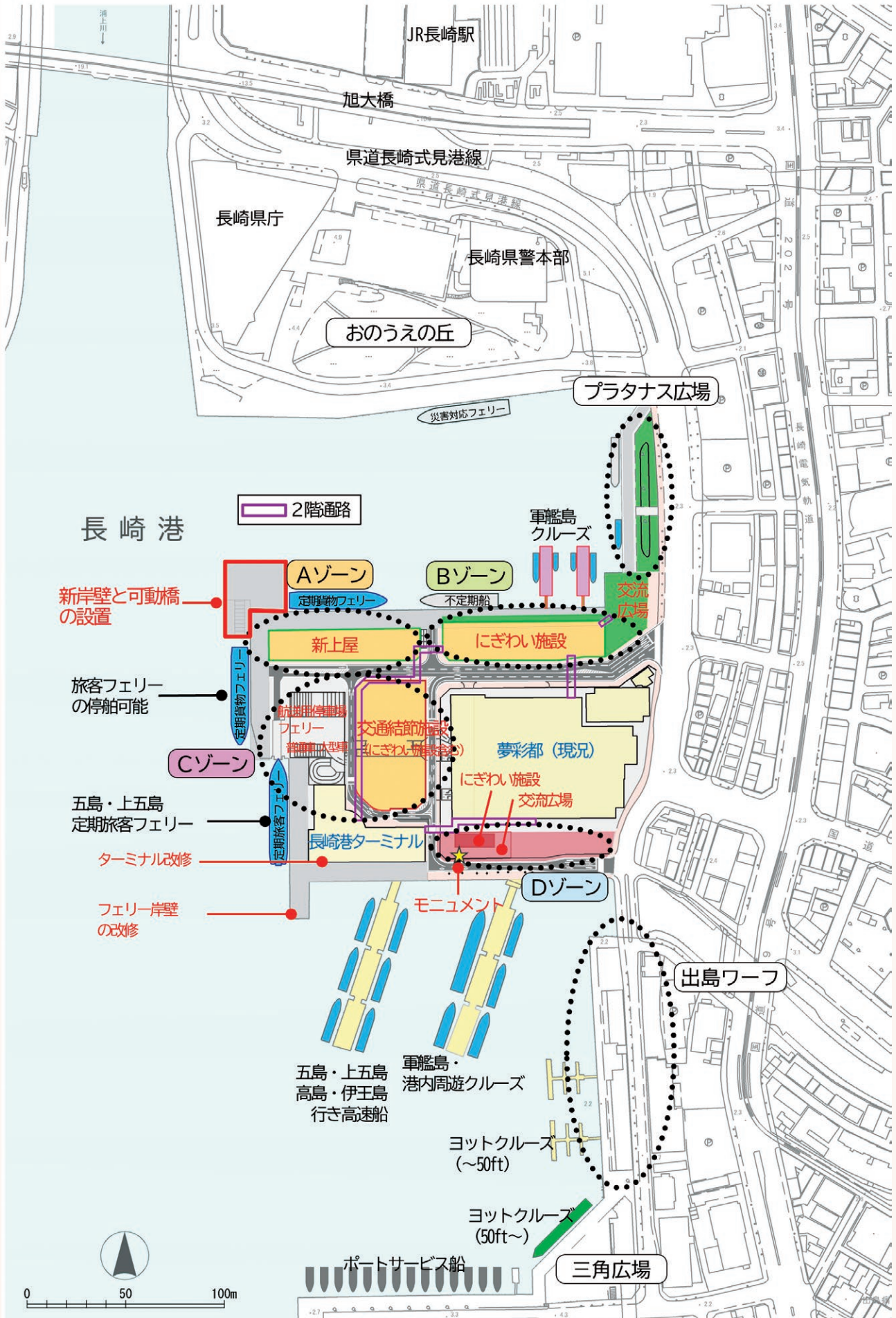
#### 【長崎港元船地区のブランド力を高めていく】

「長崎の海の玄関口」の発展のため、海陸の交通結節拠点としての機能を強化しつつ、海や船や食など、臨海部であることを活かした交流空間を創造していく。

### 具体イメージ

- 長崎の農水産物を飲食できる空間や、魚捌きなど飲食までのコト体験や物販・配送等が可能となる空間の配置。そのほか、海との関連性を活かした体験型施設や、温浴施設、ホテルなどの配置も考えられる。それらの機能は、インバウンドや観光来訪者、国際会議などの大人数の利用のほか、ホテルなどと連携した宿泊型観光での利用も可能であり、航路利用者の待合機能も兼ね、昼間だけでなく、早朝や深夜等も利用可能といった機能性を有することが望ましい。
- イベント等利用（ハレ）や憩い・待合利用（ケ）となる緑化空間の配置。そこには、カフェやキッチンカー、夜景演出、子どもの遊び場、フォトスポットの機能配置など、楽しくなる動線と空間を作る。それらの機能は、屋上展望機能と一体に活用することも望ましい。

# 全体配置計画



## 全体配置計画の説明



- 北西部に新たに岸壁と可動橋を配置し、本箇所にて定期貨物フェリーをシフトすることで、国内ターミナル機能を西側に集約します。なお、西側岸壁は、定期旅客フェリーも利用可能な構造とすることで、定期旅客フェリー運航のリダンダンシーが確保されます。
- 定期貨物フェリーや定期旅客フェリーに機能集約した上屋を新たに配置します。また、上屋の屋上には、多目的機能（にぎわい施設や展望、緑地・広場機能など）の導入を目指します。



- 新たに、にぎわい施設や交流広場を配置し、プラタナス広場からの連続性に配慮します。
- 特に、長崎駅から長崎港ターミナルまでの歩行者動線を確保するための設備（スロープやエレベーター、エスカレーターなど）を配置し、回遊性を高めます。
- にぎわい施設の前面には、軍艦島クルーズなどの観光クルーズ船の発着機能を一部集約し、にぎわい施設周辺には、待合空間を配置します。



- 定期旅客フェリーの車両停車場を必要台数分、配置します。
- ターミナル利用者や観光クルーズ利用者、広場利用者等にとって必要な台数を確保した立体駐車場を新たに配置し、必要に応じて、駐車場は、にぎわい施設との複合化や併設化を想定します。



- 長崎水辺の森公園や出島ワーフとの連続性を考慮した、広場空間を配置します。
- 広場は、長崎くんちの御旅所やイベント等で活用できる空間や、ターミナル利用者も含めた、憩い空間を配置します。
- また、必要に応じて、モニュメントやカフェ等の配置を想定します。



- 各施設の連絡通路の配置や施設の合築等により、2階レベル以上での地区内歩行者の回遊性の向上を図るとともに、プラタナス広場は、長崎駅と長崎港ターミナルをつなぐウォークアブルな空間として活用します。
- 北側道路拡幅や交差点改良により、車両交通の円滑性を高めます。
- 三角広場は、出島ワーフと長崎水辺の森公園をつなぐイベント活用等が可能なオープンスペースとして活用します。
- 既存岸壁は、大型ヨットや、やかた船等の多目的船の寄港による活用を促進します。
- 各施設のライトアップや岸壁照明等により、夜間景観にも配慮します。
- 上屋上層部や広場等には海が感じられる展望空間を配置します。





